

MIT の BCP (Business Continuity Plan)

原文のウェブサイト: <http://web.mit.edu/security/www/pubplan.htm>

翻訳: 2012 年 11 月 1 日、レジリエンス協会 BCMS 研究会

構成

- 第 1 部 序論
- 第 2 部 本計画の構成
- 第 3 部 各チームの説明
- 第 4 部 復旧手順
- 付録 A 緊急対応センター
- 付録 B 計画配布リスト
- 付録 C 事業継続管理部隊、活動開始の指針

(注: 災害が発生した際は、第 4 部を参照すること。)

第 1 部 序論

災害の影響に対応する MIT の事業継続計画 (BCP) は複雑な仕事で、大学の管理機能へ影響を及ぼす災害に対する予防・対応・復旧のために、個々の機能を有する多くの組織の支援と協力が必要である。本資料はこれ等の協力体制の記述であり、支援組織及び MIT 情報保安室 (Gerald I. Isacson) によって分析された結果である。

なお、本資料では、災害時に機能部門が不能になった場合に備え、代替コンピューター設備を指定している。

1 本資料利用法

例えば、業務準備の点検項目、人員訓練、災害復旧のためなど、MIT における重要・欠くべからざる業務機能継続の計画に含まれる問題点を学習するために活用することである。

2 参加者

MIT の中央管理部門の幾つかのグループに関して述べるが、以下の様に事業継続に対し異なるレベルと責任を有す。

- 業務計算支援委員
- 事業継続マネジメントチーム (BCMT)
- 大学支援部隊
- 機能部門の復旧管理部隊

強調すべき点は、本資料が特に MIT で災害発生時に予防・対応・復旧の責任を負う BCMT を念頭にしており、第 3 部で BCMT の組織を詳細に述べる。

3 配布

本資料は、BCMT・大学支援部隊・業務計算支援部隊・機能部門復旧管理部隊のメンバーと情報システム部長、その他直接復旧には関係しない人々にも配布される。

第 2 部 本計画の構成

本章は MIT に於ける BCP の基本方針とそれに拘わる分析を述べ、又本計画の履行における BCMT の機能を概観する。

1 BCP の目的概観

MIT はコンピューターを利用した情報処理・通信にますます依存するようになって来たが、このことは MIT の管理組織内に留まらず、情報が拡散する傾向にある。

業務支援の為のコンピューターと通信への依存が増加すると、これ等の機能の長期途絶が学内の総合的業務に支障を来す危険度が増す。危機分析よれば、幾つかのシステムが停止すると、() 時間内に学内に重大な衝撃を発生させる**第一区分**に属し、又主要な機能は機能を失うと() 週間内で問題となる**第二区分**に認定される。この危機査定は、環境が変化しても復旧計画を確実にする為に定期的に繰り返し実施される。

MIT 業務は学内の支援能力や通信機能が深刻な破損を蒙る可能性は低いと認識しているが、衝撃の可能性ゆえに破損危機軽減計画は避けられない。学内の BCP は、最重要システムは() 時間以内、その他全ての**第二区分**システムは() 週間以内で途絶から回復することを確実にする危機軽減計画を考えた。

本計画は MIT の重要機能とそれを支援する必要な資源を認定し、災害予防と対応に必要な人材と資源と、適宜に業務復元実行できる適切なステップを明確にした。

この BCP は BCMT の責任を明確にし、任務は学内機能の継続を確実にする手順を学部毎に確立することである。災害発生が何処の機能部門に影響しようとも、BCMT は影響を受けた機能部門と主たる業務を行う他の学部間との連絡を取る。このことは設備・学内警備・学内広報などの支援を含む。

2 想定

下記 3 条件を想定する。

- ① 災害状況は()の業務執行システム設備、機能部門設備、機能部門を支援する通信・ネットワーク部門、等に特定される。**ボストン市街が影響を受けた 1978 年の猛吹雪や地震の様な一般災害を想定していない。**
- ② 本計画は広域災害であっても有効に機能し、共同体に対する本質的貢献の回復が個々の組織回復に優先するとしても、学内事業継続計画は支援基本機能のため、我々の資源の迅速な回復を実行しなければならない。
- ③ 本計画は第 4 部に示した様に、緊急部門や代替資源の活用に基づく。これ等の利用し易さ・同等代替設備は本質的に必要である。計画は MIT の環境・必要性変化を反映し、継続的な資源の配置・保全や準備体制を必要とする。

3 開発

MIT 情報保安官は基本支援部門の援助に拠り、学内の BCP を開発する責任を負う。開発と個々の機能部門復旧管理部隊計画の支援は機能部門の復旧責任である。

4 保全

本計画は資源の変更進行を反映することを確実にすることが不可欠である。この業務は本計画の更新と、更新された本計画に基づいた試行・人員訓練を反映した文書改定である。BCMT 調整者はこの包括的保全の責任を負う。

BCMT 調整者は、本計画の前四半期からの変更を明確にする正式見直しを四半期毎に確実に実施する。一年毎に BCMT 調整者は本計画の完璧な見直しを実施し、文書改訂を行なう。これ等の改定文書は責任者に配布され、各責任者は新バージョン計画書に取り替える。その時調整者は年間継続計画を業務計算支援委員会に報告する。

5 試行

BCP の試行は予防の本質である。個々の要素の試行と復旧計画は BCMT で特定されて日常的に実施される。総合演習は年一回実施される。

6 災害対応・復旧組織

MIT における BCP の組織骨格は BCMT であり、災害が MIT の活動や資源に影響する事態になった場合、このチームが本計画に則り復旧活動を開始する。業務計算支援委員会は MIT における BCP の活動を認定する責任が在り、BCMT はその承認の下に活動を実行する。

7 業務計算支援委員会

- 上級副学長・委員長 復旧活動管理、復旧活動に際し MIT 上級管理者取り纏め・状況報告
- 財務副学長 被災業務機能単位間の取り纏め
- 情報系副学長 データ処理・通信系統復旧取り纏め、緊急箇所・管理システムの立ち上げ
- 研究担当副学長 委員取り纏め被災業務機能支援
- 資源担当副学長 委員取り纏め被災業務機能支援
- 同窓会上級副学長 被災同窓会機能取り纏め
- 教務部長 委員会取り纏め被災業務機能支援

8 BCMT(事業継続マネジメントチーム)

学内支援部隊を有する BCMT と機能部門復旧管理 (FARM) チームの二つが主たる組織である。被災時は、BCMT は全体支援を行い、FARM チームは特定機能の業務復旧に当る。本章では BCMT の一般的役割を述べ、第 3 部で責任と学内支援部隊の詳細を述べる

8.1 BCMT

BCMT は業務の上級管理者からなり、構成は以下のとおりである。

情報保安官	BCMT の調整者として、管理システムおよび FARM チーム調整者と共に、被災箇所の実行管理を取り纏め、同時に BCMT の支援の下、BCP の保全・訓練・試行の責任を負う者
システム管理者	主要データセンターと復旧箇所のデータ処理支援

通信管理者	通信ライン遮断時、会話・データ通信の代替機能準備、学内通信網の適切予備手段の策定
学内警備長	被災地区の通知・緊急安全対策、周辺保安への拡張
設備管理者	配管・電気・構造体など維持系統の支援、被災規模と予備設備規模評価
保険・法規管理者	保険準備申請、保険継続計画
広報管理者	復旧に拘わらない、メディア、公共、職員、教員、学生、との会話
人事部	緊急連絡・支援人員の通知
分散計算・通信管理者	業務・研究その他支援提供
情報系副学長補佐	学長事務室の代表、FARM チームへの協力
副会計官	財務副学長の代理、FARM チームへの協力
監査管理者	緊急時支援、復旧過程に於ける通常機能への変更支援
保安室	BCMT と共に緊急対応時の危険低減支援

8.2 緊急対応チーム

本チームは設備管理者を長とし、学内緊急時の初期対応を行なう。

8.3 大学支援チーム

BCMT の総合的指示の下、機能地区復旧支援を行う。このチームは以下に示す様に被災地区の FARM チームと協力して学内状況回復を行なう。多くの場合この部隊の構成員は業務支援を通常業務としており、組織の説明書に記述してある。

BCP は学内業務と個々の FARM チーム活動の協調機能として説明書に協調されている。本計画書と組織内文書の記述が異なる場合には組織内文書が優先される。

8.4 損害査定／救済チーム

設備業務管理者を長として、緊急時初期段階活動を行ない、部隊は直接、BCMT に報告し、被災機能区域の初期状態の評価・施設及び残存救済可能設備の復旧所要時間予想を行う。このチームは人員を、設備事務所・システム管理・通信管理・分散計算網・FARM チームなどのみならず、納入業者や周辺環境から引き抜いてくる。

損害評価に続いて、本チームは装置・データ・供給救済の責任を負い、データセンターの再構築と災害からの復旧に際し、如何なる資源が残存し利用可能かを決定する。損害査定チームの構成員は救済チームメンバーとなる。

8.5 運搬チーム

設備副管理者と計算機管理者の共同管理の下、臨時大学支援部隊は、必要に応じて支援地域へ、人材・装置・材料輸送手段の責任を負う。この部隊は二つの組織即ち、シャトルバス運転者と重量物の設備運搬者を引き抜くことが出来る。

8.6 広報チーム

メディア対応、一般広報対応、復旧に拘わらない職員・一般学生対応、人事部と緊密な関係。

8.7 通信チーム

情報通信学科長の下、学内被災地区とその他地区の電話・データ通信立ち上げの責任を負う。

9 災害対応

ここでは 本章は災害或いは災害に発展する問題点、に対する 6 つの必要対応に関して述べる。

- 9.1 災害状況の発見と決定
- 9.2 災害連絡
- 9.3 学内 BCP の開始
- 9.4 重点指定区域の活動
- 9.5 広報伝播
- 9.6 災害復旧戦略

9.1 災害状況の発見と決定

MIT 内情報処理体系に影響する事象の発見は、設備運用、学内警備、情報系、或いは誰であれ、主要情報処理設備・通信ラインの機能地区()、建屋()の、最初に緊急事態を発見するか情報を得た人間の責任である。

9.2 災害連絡

設備運用は現状に従い BCMT 当番者へ通知する。当番者は電話を受け状況を監視し、予め決められた条件に従い BCMT 代表に通知する。学内の主要な情報処理システム通信網が断絶することになれば、以下の人々に通知する。

- 設備運用・学内警備は通常、監視警報を受けるが、問題発生が警報を出さなければ、即この 2 箇所への通知が必須である。
- 業務計算支援委員委員長
- 情報系副学長
- BCMT 調整者(情報保安官)
- 業務&システム FARM チーム調整者
- 通信・分散計算・通信網 FARM チーム調整者(状況が電話・通信網に影響する場合)

9.3 学内 BCP の開始

BCMT 調整者または BCMT の全メンバーまたは業務計算支援委員が責任を負う。

9.4 重点指定区域の活動

重点指定区域の活動や代替資源の責任は情報システム副学長に在り、副学長不在の場合は情報システム管理者か、システム機能 FARM チーム調整者になる。発生から()時間以内に情報システム副学長か代替者が、被災部門の設備・オペレーション・通信代表らの下、情報保安管理者と損害査定部隊の支援を受けて、被災機能部門復旧の予想を決定する。

もし被災機能部門の占有・復旧想定時間が()時間を超える場合には、指定代替部門の占有が通知される。

9.5 広報伝播

MIT 広報管理者は復旧に参加しない人事部門と協力して、メディア・公共、との会議や議論を行なう。MIT 広報代表不在の際は、状況に遭遇した上位事務担当に責任が移譲される。

- **復旧状況情報 No.(617)** は復旧状況と注意情報を載せる音声メール番号として設立された。全ての報告は BCP 調整者か通信機能部門復旧チームリーダーから発せられる。
- **復旧支援サービス支援提供** 災害時或いはその後、大学支援チームは前述に示したように、BCMT の下、復旧調整者による指示に従い、FARM チームを支援する責任が在る。

9.6 災害復旧戦略

以下に示した災害復旧戦略は特に主要データセンターの障害に関係する。この機能部門には、MIT の業務管理を提供する大型コンピューターや主要サーバーが在る。特に**第一区分**と称する重要運用であり、オペレーション FARM チームは()時間以内に運用を復旧する計画を提供する。その下に学内 BCP の中にオペレーション計画を要約する。BCP の補足はデータ処理の復旧をオペレーション&システムによって提供される。

このセクションは 3 つのフェーズで災害復旧が行なわれる。

- 緊急状態
- 継続(代替)状態
- 復旧状態

これ等のフェーズの実行計画は以下に示す。学内の業務ビルとその他のビル・重要システムの維持を行なう機能部門が被災した場合、同等に緊急対応が適応される、と補足は述べている。

9.6.1 緊急状態

緊急状態は災害への最初の対応で始まる。本状態の間、学内警察と設備の緊急対応計画と手順は、人命と資産の保護であり、初期対応の目標である。地区の保安は地域支援として確立されており、警察や消防署が現実の体制の中に組み込まれている。BCMT 当番者は呼び出しを受け、状況の監視を開始する。

緊急事態が、データ処理・支援設備の破損等、主要データセンターや他の重要拠点へ影響しそうになるか、又は施設への入場が出来なくなると、当番者は事象を詳細に監視し、BCMT へ通知して損傷評価の支援を求める。施設への入場が可能であれば、損傷評価して途絶期間を見積もり、入室が出来なければ、見積もりは施設への影響が評価可能になる迄の時間を含むことになる。

見積もり途絶時間が()時間以下なら、通常の情報システム復旧手順に従って復旧が行なわれ、途絶が()時間を越えると当番者は事業継続チームを始動させ、順次業務計算支援委員長、情報担当副学長に連絡し、BCP が開始される。

BCMT は、復旧が完成し・学内が状況変化し、好い状態になる迄活動する。

9.6.2 継続(代替)状態

継続状態は、FARM チームの適切な活動でも、途絶が()時間異常を超えた時に開始する。継続状態の初期には、重要処理が回復することが目標であり、設備の損傷評価や施設の物理的構造にも拠るが、主要データセンター或いは指定重要拠点の回復である。

継続状態では、最初の重要拠点(**第一区分**)が、第()週迄に、多くの**第二区分**が許容期間内に支援されなければならない。この期間これ等のシステム回復は多分質が低下する。この()週間に、主要データセンターは完全使用状態に戻らなければならない。

しかし損傷地区が長期間の再建を必要とするなら、代替第二段階が開始する。第二段階では主要設備(契約した予備代替設備)が()駐車場に組み立てられ・実装され、恒久設備が出来上がる迄全てのアプリケー

ションが可能になる。

9.6.3 復旧状態

機能部門の復旧に必要な時間と通常処理の最終的回復は災害損傷に依存し、時間は数日から数週間になる。いずれの場合も復旧過程は災害後直ちに開始し、指定重要区域の代替作業と同時に行なわれる。第一次の目標は可能な限り通常作業が開始されることである。

10 BCP の範囲

本計画の目的は、災害により機能不全になった設備とそれらを支えている系と機能を、重要設備(第一区分)は()時間以内に、主要設備(第二区分)は()週間以内に復旧することである。

MIT 業務を支えている計算機アプリケーションの最初の危機査定は、()システムを第一区分重要とした。この危機査定は最優先順位を有し、()以内に回復しなければならない。特にこれ等のシステムの個々の機能は以下の4区分に分類されている。

- 第一区分 必須機能
- 第二区分 本質機能
- 第三区分 必要機能
- 第四区分 願望機能

注：第四区分はMIT業務処理には重要であるが、性質上・実働頻度・その他、により緊急事態には稼働しなくても好い。

第一区分～第四区分の業務用システムは学内広く支援を行っている。()の様に)情報処理を行わず、多くの学科・研究所の多くのシステムがあるが、これ等は学内や部門支援ではでは主要である。これ等のシステムの復旧は失われたときの損失と復旧コストに基づいて評価される。

第3部 各チームの説明

各チームの組織と責任を説明する。各チームは、機能部門・中央業務・主要データセンターなどが災害によって機能不全になった際に、対応・復旧活動全ての計画・実行し、主要な役割は問題発生部門に対し大学レベルの支援を提供することである。

1 大学支援チーム

情報保安官	BCMT 調整者として学内業務・管理チームと問題発生部門の FARM チームを取り纏める。BCP の通常保全・訓練・試行の責任を負う。 BCMT の支援下、大学支援チームと連携する。BCMT の調整者は、システム FARM チームの調整者でもあり、情報保安官不在の場合は復旧の責任を負う。
システム管理者	オペレーションシステム復旧の第一義的責任を負い、データ処理資源支援を行う。計算施設の復旧計画は O&S の FARM チーム調整者の責任を負う。
通信管理者	災害事象により通常通信ラインと装置遮断時に、会話・データ通信の代替機能準備を行う。学内通信網の適切予備手段の必要・選択策定、5ESS 電話の復旧計画を担当する。
学内警備長	被災地区の保安・緊急支援提供と災害問題状況の通知。災害影響区域周辺保安の拡張。公共緊急サービス(ケンブリッジ警察)との調整が必要。
設備管理者	配管・電気・構造体などの復旧の連携。損傷評価と災害影響設備の占有予測。
安全管理者	政府その他緊急サービス同様、復旧計画と対応において、他の組織に係る保安と危険物質調整。
人事部責任者	復旧過程の全ての活動に関し人員動向・状況に注意・調整。被災部門からスタッフを解放し、緊急通知システムを発動し、学内広報と協力して復旧に関する情報伝播。
分散計算機網責任者	ネットワークと支援設備の復旧支援調整。Athena(MIT 内コンピュータシステム名称:訳者註)通信サービスと外部ネットワーク調査支援を含む。
広報管理者	メディア、公共、職員、教員、復旧に拘わらない学生との会話。
情報体系副学長補佐	学長事務室の代表
副会計官	財務副学長の代理
監査管理者	復旧過程に於ける適切な管理の維持の助言と補償活動助言

2 BCMT

2.1 機能

全ての**第一区分**、**第二区分**に関する復旧計画の開発・保全・試行を包括する。災害事象において、代替・復旧の努力をし、主要業務機能と通常活動の復旧のための支援を促進する。

2.2 組織

MIT 情報保安官と計算システム FARM チーム調整者の 2 名を長とする。チームは復旧に拘わる部門の主要管理者から構成される。

2.3 インターフェース

本チームは MIT における全ての BCP と計画人員のインターフェースの責任を負う。

2.3 必要な準備

四半期毎に、本チームは直前の四半期に完成した FARM チームの計画を見直すために会合する。毎年チームは全ての復旧計画を見直し、情報保安官を通して業務計算支援委員に報告する。個々のチームメンバーは MIT の指定された責任部門の復旧計画を準備し、手順の変更は関連手順に反映される。

BCMT は、継続支援が必要とする FARM チームの支援可能なことを確実にし、提出された FARM チームの計画を評価承認し、定期的に復旧計画の認知・試行を行なう。又安全部門やその他適当な学内組織による緊急訓練を始動する。

3 損害査定救済チーム

3.1 機能

施設に立ち入った後 2-3 時間以内に、影響を受けた部門の損傷範囲や、データセンターの移設及び使用に関する再開可能性を、BCMT に報告する。現存設備の緊急対応計画は設備によって“Black Box”として説明書が保管される。BCP の付録は“Black Box”に付随し、如何なる場合でも優先する。損傷評価に続いて本チームは被災部門の救済活動に移る。

3.2 組織

設備業務管理者を長として、初期緊急事態に本チームは、機能部門の損傷状況の評価し、損傷施設の損傷時間・残存設備の救済可能性を直接、事業継続管理部隊に報告する。緊急事態期間には、Black Box 内の個人は損傷査定の責任を負う。本チームは設備部門・システム部門・被災部門の FARM チーム等から人員を引き抜く。評価に引き続き、本チームは装置・データ・補給など救済の責任を負い、データセンターの災害からの復旧・再建に利用可能な残存資源を認定する。

3.3 インターフェース

本チームはその他の設備運用グループ・学内警察・情報系・納入業者・保険代理店等のインターフェースとなり、新装置・設備・その他復旧の関する他の要素が遅れないようにする。

3.4 必要な準備

全ての装置の現状認定。四半期毎に、構造変化程度・帳簿価格・貸用地(人)等、構成図も含めて・全ての現情報の記載、報告を他の場所に保管。携帯電灯・ヘルメット・長靴・携帯多機能ラジオ・フロアプラン図・装置レイアウト図・等緊急用装置は設備で準備する。納入業者・顧客対応技術者・地域販売員・技術事務所・等リストは四半期毎に見直し・保管される。氏名・住所・電話番号(一般・家庭・緊急)も同様。

4 学内警備チーム

4.1 機能

全ての保安・安全面で積極的に拘わり、損傷部門や支援箇所における全ての MIT 従業員・資産の適切な保護と警備を提供する。

4.2 組織

学内警備課主任と適切な支援人員からなる。本チームは BCMT メンバーである主任を通して報告する。

4.3 インターフェース

本部隊は保安・安全に関係する以下の部隊や組織と連携する。

- 人事部門
- 設備部門
- 保安部門
- 周辺メディアサービス
- MIT 広報
- その他必要とされる適切なグループ

4.4 必要な準備

必要であれば救急医療も提供。損傷部門・支援部門の保安を実行するのに必要な学内警備人員、指定された義務を全うする人員が必要な装置を確認する。更に必要であれば追加の保安設備・人員の配置を調整し、守秘情報の支援地区・遠隔地区間の移動に関する保安認定と実施、MIT 内必要課との調整、被災・支援部門の保安レベルの見直し、等を行なう。

5 広報・公共情報チーム

5.1 機能

公共状態を維持する最も難しい時期は、事故が発生か、または緊急時である。広報の計画は緊急時にメディア、従業員・研究者・学生の親類・知人からの問い合わせを効果的に処理すること。一般に公共機関に対し、悪い状況を好くする事は期待しないが、事実を出来るだけ正確にそして前向きに表現することが求められる。可能な限りメディアと協力することが一番で、その為学内を事実以上に損傷し・虚偽である様な信頼できない根拠に近づいてはならない。緊急時の学内規範を以下に述べる。

- MIT の広報は公認された発言者を有し、全ての公共情報はこの人員により調整・伝播される。
- 家族が通知するまで従業員被災情報は発信せず、家族が通知したら、従業員名の広報はその他の従業員の親類の不安を直ちに軽減する。
- 事実が確認され次第、事実に基づく情報は、新聞・責任者に可能な限り速く通知され、噂や誤報をさける為にあらゆる手段を利用する。
- (一般に消防署が彼ら独自の見積もりを報道するが)事故の原因・損傷規模・損失規模等を含め、積極的に評価されていない憶測は避ける。
- 緊急事態と状況を扱う学内の積極的状況を強調する。

- 緊急公共情報計画の要求は含まれるが、以下に限定されない
 - システム故障、通常動作の途絶
 - 事故、特に個人の負傷
 - 自然災害、火災、洪水、トルネード、爆発
 - 市政混乱、暴動、職場放棄
 - 幹部死亡
 - スキャンダル、横領、資金流用
 - MIT 反発の法廷闘争

5.2 組織

広報責任者、事業継続管理委員、が学内広報官となる。広報は、付録Aに記載、不在時には上級管理者に委嘱

5.3 インターフェース

MIT とメディアの仲立ち、状況報告の写しを BCMT 又は業務計算支援委員に送られ、広報官は適切な情報公開を可能にする。人事課と共同作業。

5.4 必要な準備

地方メディアと協力、緊急事態・復旧状況を、メディアと他の必要組織を見直し、プレスルームとして使えるように通知し、必要設備の準備・メディアへのサービス、通信部隊と協力。

6 保険チーム

6.1 機能

災害発生以前・以後の資産保護の保険、保険会社による早急・適切な復興が確実に実行されるようにする。

6.2 組織

保険と法律の責任者と保険業務経験スタッフ。本チームは BCMT のメンバーを通して報告する。

6.3 インターフェース

本チームは以下のチームと連携する

- MIT 広報
- 学内警備
- 損害査定/救済
- 情報管理
- MIT 広報
- 適切な FARM チーム。

6.4 必要な準備

保険適用案件の決定。装置、媒体、復旧媒体、債務、追加費用の決定。災害初期段階(付録 A 記載)に於

ける損害査定/救済部隊による推奨の纏め。連絡先(付録B記載)の連絡。損害記録の静止・動画画像記録準備。利用可能な装置在庫・型式・製番の確認。災害発生時使用可能な MIT 新規製品とサービスの査定。

通信チーム

6.1 機能

重要機能の音声・データ通信機能提供。損傷系統・装置の復旧。

6.2 組織

適切な通信設備人員。必要な外部接続機能の指導。BCMT メンバーである通信系統責任者を通して報告する。

6.3 インターフェース

本部隊は通信に関係する以下の部隊や組織と連携する。

- 設備部門
- 学内警備部門
- 必要な分散処理部門
- その他情報処理部門
- 緊急通信を必要とする他の MIT 部門
- その他必要とされるサービスと提供する外部連絡者

6.4 必要な準備

事象が発生し、通常通信系統や装置の途絶・人員の移設が必要になった場合、重要音声・データ通信機能を提供す。外部連絡者・機能提供者の支援を受け、適切・適宜に装置・材料交換を可能にする。MIT 優先 TVや音声メール系統等、利用可能資源を活用して明らかになった災害情報を放送する。

第4部 復旧手順

1 通知リスト

本項には、災害発生時に通知を受ける管理者や人員の名前・電話番号を含む。BCP 委員会調整者はこの通知リスト更新の責任がある。

- 業務計算支援委員会
- 委員長
- 委員
- BCMT

二名が、緊急事態発生時に監視する為、設備運用等他の学内組織との連携責任を有する。この初期警戒当番者は又 BCMT と必要な FARM チームの実稼働開始を促す。

BCMT の当番者は、設備運用部門に支援されるか・又は直接の呼び出し電話を所持し、同時に緊急時使用の携帯電話を所持する。

2 BCMT 当番者連絡法

呼び出し電話: 当番者は電話番号、80 字本文呼び出し: メッセージ呼び出し、呼び出し暗証番号

1: 2:

携帯電話 (注: これ等の番号は緊急時又は試験時のみ使用)

1: 2:

当番者は状況を監視し、活動に影響の可能性が在るかどうかが決定し、必要な場合は以下に通知する。

調整者

メンバー: 情報管理、通信、学内警備、広報、保険、設備、緊急対応部隊、オペレーションセンター
安全事務、学長室、会計事務室、人事事務室、分散計算処理

BCMT 関連: 住宅供給、原子炉、プラズマ融合研究所、医務室、FARM チーム調整者、会計部門
財務部門、新入生部門、計算処理部門、巡視部門、設備部門、資産管理部門、資材購買部
門、学籍部門、資源開拓部門、技術協調部門、通信部門

3 BCMT 調整者

本項には、BCMT 調整者が災害を概観し対応・復旧作業に対する行動を含む。

- BCMT への通知を確実にする
- 情報処理担当副学長、業務計算支援委員会への通知
- 緊急対応センターの立ち上げとメンバー集合通知
- 損害査定部隊の立ち上げと、観察・結果を BCMT による見直し
- 復旧のために、次の段階を BCMT への答申・調整
- 復旧関係者への通知開始、復旧関係者への周知徹底
- 復旧関係者の活動監視、彼らの要求事項の支援
- 復旧状況の、BCMT・業務計算支援委員への定期的報告
- 毎時・或いは他の適切な周期で、復旧状況の()へ報道

4 復旧査定/救済

本項には、復旧査定／救済チームが災害に際し対応・復旧作業に対する行動を含む。

- 建築物支援通知チームと業者に、初期損傷と清掃通知
- 設備査定し保険代理店通知
- オペレーションセンター作業指示と適切人員連絡
- チームリーダーは必要ならば消防署への立ち入り許可申請
- 適切業者から代表者提案・保険提案を受け、設備部門、情報部門、への入室提案
- 設備の損害査定、装置、支援設備(電気、消炎、通信等)の損害範囲の記録、
- チームリーダーは、損害程度と今後何が救済必要か BCMT へ通知
- チームリーダーは、定められた時間内に必要な実働設備が開始する必要がある部門を BCMT へ通知

5 救済活動

本チームのリーダーは緊急通知リストメンバーへの通知を開始し、実行部門のメンバーに報告する。

- 救済部隊は、装置や機能が救済されるように建造物支援を行い、保険申請の為損傷部門の撮影を速やかに実行
- 重要なことは、救済の実行ではなく、保険部門に連絡し、可能な保険申請の必要事項・査定の協力を行うこと。
- 設備部門主任・人員に、装置・家具の救済を開始してもらう。
- 保険部門や顧客対応技術者の助言に基づき、損傷装置の再構築のための計算機稼働に着手
- チームリーダーは、BCMT 調整者に救済作業状況を通知
- 構成簿： 構成簿と在庫装置報告書の例は、固定資産管理体系或いはその他の自動在庫が自動的に報告・挿入される。遠隔地にある保管物も継続計画マスターに全て記載される。
- 計画図： 重要建築物・データセンターの完璧な計画図が遠隔地()に維持保管される。

6 学内警備

本項には、災害対応・復旧活動に関する学内警備部門の説明を含む。

- 学内警備当番者は、災害状況が安定した状態で報告が完成し、標準的活動としてこの報告は犠牲者、証人、負傷者、損傷設備記述等や、通知者のリストを含む。
- 本当番官は、適切な部隊人員リスト通知によって始まる。
- 緊急事態がデータ処理・通信処理に及ぶ場合には、昼夜を問わず BCMT に通知する
- 本当番官は部隊を損傷部門と必要であれば支援部門に配置する。
- 本当番官は、全ての部隊人員が適切に全ての影響部門・復旧部門に配置されることを確実にする。
- 本当番官は必要に応じて追加の人員・設備支援に協力する。
- 司令部は定期的に緊急コントロールセンターに居る調整者に状況報告する。
- 司令部は、損傷・支援両部門において、入出管理・情報伝達等、全てのスタッフが拘わっている保安面を確実にする。

7 MIT 広報

- 緊急事態発生時学内警備は広報事務所に通知
- 広報は、必要であれば上位管理者と連携して公共部門の緊急事態の概要を査定し、適切な行動を決定
- 消防・警察などを巻き込み、メディアが即通報した場合、広報官は直ちに最初の事実収集場面に立

ち会う。可能な限り早急に、メディアに対し適切な情報の上に強調が重ねられるに違いない

- メディア他の要求に対し応答した、受信電話を確実に記録する
- メディアに放出した情報記録を確実にする
- リストにある地方メディアに対して適切な時期に放出情報を準備
- もし部隊員が死亡・負傷したら、適切な管理者を被災者家庭に派遣
- 人事は家族が通知されたら直ぐに広報に通知し、犠牲者の住所・指名通知は他の人々の不安を除去する
- 病院に負傷者が搬入されたら、情報発信の協力の為病院広報に接触する
- メディアが長期間参入した場合、電話などを提供し、報道室を準備する
- 関連する管理者を交えて、スケジュールを報道会議
- プレスが被災状況の写真を要求したら、承認前に学内警備の許可を摂り、カメラマンに同行
- 緊急事態から改善見込みが出てきた段階で、後続ニュース放出実施、次回同様な災害の発生を防ぐ為に何をしたか、等可能なトピックを含む
- 復旧・再開計画の説明
- 共同体の支援への感謝表明
- 従業員・学生・研究者への支援の説明

8 保険チーム

本項には、災害対応・復旧活動に関する保険部隊調整者の説明を含む。

- 本チームのリーダーは災害に関する最初の助言を保険関係者に行なう。
- リーダーは被災箇所での損害査定部隊に会う。
- リーダーは被災場所を損害査定部隊と一緒に通過し、保険申請に関し助言し、保険会社からの復旧妥協に対し何も実行しないこと。全ての適応部門の写真撮影。
- リーダーは該当保険会社の全ての申請書類を保管。
- BCMT へ申告活動状況を報告。

9 通信

本項には、災害対応・復旧活動に関する通信部隊の重説明を含む

- 設備部門からの報告を受けるか、人員の支援
- 数時間後、設備当番者か学内警備に適切な通信と人員を通知
- 責任者は通信系等を概観し、損傷査定、代替・復旧指示、BCMT と MIT 業務へ更新
- 重要部門を支援する、音声電話・ダイヤルデータ通信の作業と手配、損傷装置の修理・交換部材購入、適宜全支援開始
- 重要部門を支援するデータ通信設備・回路の転送支援、必要なケーブル・配線設備支援、情報系や他の部門をデータ設備の配置や復旧支援

付録 A 緊急対応センター

緊急対応センターは事業継続管理部隊が使用する場所、そこからスタッフが復旧管理を支援し、発生時に場所の選定は調整者によってなされ、以下の機能が可能

- 緊急対応センターは()にあり。
- 中央行政館が事務不能になったとき、退避直後に事業継続管理部隊は()ビルに事象の初期対応を行なう為に召集し、問題が長期間に亘るか、地方にも影響する場合には、事業継続管理部隊は緊急対応センターを()に設置する。
- 緊急地点(データ処理センターは緊急計算資源を準備する)
- 設備準備(オペレーションシステム機能部門復旧管理部隊計画参照)
- 中核地点(装置を設置可能な計算機空間)
- 設備準備(機能部門復旧管理部隊計画参照)

付録 B 計画配布リスト

組織/部隊	受領者	場所	部数
事業継続管理部隊調整者			
監査部門			
学内警備			
会計検査官			
経理部門			
主任会計官・給与支払い部門			
緊急連絡部隊			
保険部門			
情報システム管理部門			
広報部門			
人事部門			
設備部門			
学長室			
安全部門			
通信部門			
分散計算機網支援部門			
業務計算支援委員会			
委員長			
機能部門復旧管理部隊調整者			
会計部門			
新入生管理部門			
リンカーン財務部門			
公式財務計画管理部門			
購買・売店			
学籍部門			
技術権利部門			
学術計算支援部門			
行政システム開発部門			
計算支援部門			
文書化と訓練支援部門			

付録 C 事業継続管理部隊、活動開始の指針

1

最初の問題点の兆候は設備業務からの呼び出し警告ではないだろうか。これは問題点概要の短い文章であり、もし問題点が長期間に亘らず又重大でないならば、(オペレーションセンター内で沈静化する時間)約30分間待って()に居る彼らに電話すること。そして呼び出しによって事業継続管理部隊を要求している事を伝え、最新の問題状況を把握しなさい。

2

問題点が、機能部門復旧管理部隊の連絡リストにある部門の、通常のアクセス・業務・利用を妨げるか、或いは災害が電話・通信網・主要計算機の稼働を遮断するか？

- もしそうでなければ、帰って寝る
- そうなら継続する

3

被災部門の復旧作業が通常勤務時間に突入するか？

- もしそうでなければ、帰って寝る
- そうならば継続する

4

被災部門の機能部門復旧管理部隊調整者は、災害が業務に影響すると認定するか？

(機能部門復旧管理部隊連絡リストは、本部隊調整者の電話と彼らが居るビル名を記載している)

- もしそうでなければ、帰って寝る
- もしそうならば継続する

5

事業継続管理部隊活動開始

調整者への電話が第一

連絡できなければ直接部隊へ電話、番号は補足に在り、事業継続管理部隊集合場所は三点あり：

- 問題が()に関係していれば、()の会議室に集合
- 問題が()に関係していれば、()の会議室に集合
- その他全ての問題の場合には、緊急対応センター()

語彙集(訳者註)

Administrative Computing Steering Committee	業務計算支援委員
Business Continuity Management Team	BCMT (事業継続マネジメントチーム)
BCMT Duty Person	BCMT 当番者
BCMT Coordinator	BCMT 調整者
Campus Police Department Supervisor	学内警備課主任
Campus Police Duty Sergeant	学内警備当番者
Computer Operation Manager	計算機管理者
Damage Assessment/Salvage Team	損害査定救助チーム
Emergency Response Team	緊急対応チーム
Emergency Operation Center	緊急対応センター
Emergency Public Information Plan	緊急公共情報計画
Functional Area Recovery Management (FARM) Teams	FARM チーム
Information Systems Telecommunication Department	情報通信学科
Information System Operation	情報管理
Information Security Officer	情報保安官
Institute Support Team	大学支援チーム
MIT Information Security Office	MIT 情報保安室
Public Information	広報
Public Information Officer	広報官
Safety Office	安全部門
Telecommunication Team	通信部隊
Transportation Team	運搬部隊
Administrative Officer for Physical Plant	設備業務管理者
Physical Plant Mechanical Engineering Manager	設備管理者
Associate Director of Operations for Physical Plant	設備副管理者
Physical Plant Operations	設備運用